



郷土史

ていね

第 69 号

平成 25 年 9 月 11 日

手稲郷土史研究会会報

第 88 回(平成 25 年 8 月 7 日)定例会の研究発表要旨

北海道への移民について(私の家族史から)

前田 菅原 直 氏

私は、この数年自分のルーツに関わることについて調べてきました。
私は、道産子 3 代目。祖父母が明治の中頃から末期に北海道へ移民として来ています。

母方の祖父は、「香川県から」移民として来た。祖母は、「富山県から奉公先の一家と一緒に」移民として来ていることについては、幼い頃から聞いていました。

しかし、父方のルーツにかかわることについては全くといっていいほどわかりませんでした。



以前姉が作成した「我が家の家系図」を基に、父や祖父母たちの「改整(正)原戸籍謄本」を取り寄せ、それを詳しく読み、さらに曾祖父母の出身地へ戸籍謄本等を取り寄せて調べました。そして、わかったことをもとにして家系図に追加しました。

戸籍謄本には、事項欄に小さな達筆な文字で毛筆やペンで書き込んでいて読むのがたいへんでしたが、ルーツに関わることがたくさん書かれていました。拡大コピーをとり、さらに拡大鏡で読みやすくし解読してみました。

すると祖父の出身県や住所、分家に関わること、北海道で暮らした場所、結婚した祖母の出身に関わることなど、さらに結婚後、道内各地を転居したことや死亡した場所等が詳しくわかってきました。

このおかげで、父方の出身地が宮城県栗原市金成であることや、北海道の各地を転居した理由についてもわかってきました。

祖父の仕事は、「マッチの軸木工場」で働いていたことがわかりました。

北海道に豊富にあった、マッチの軸木になる「どろの木」や「どろやなぎの木」を伐り出す仕事をしていたようです。

川の上流部の木材を流送して河口部の工場小さく伐り、船で関西のマッチ製造工場へ運んだという明治時代に発達したわが国のマッチの歴史も知ることもできました。

木材の川での流送については、内陸部への鉄道建設の進行とともに姿を消してきたこともわかりました。今、私たちの周りではあまりマッチを見ることはなくなっていますが、日本のマッチは、良質で世界中で多く使われているそうです。そして、そのマッチの軸木は、中国からの輸入にたよっているのだそうです。

北海道立図書館や札幌市立図書館に通い、祖父母たちが生活していた市町村の歴史も調べました。札幌市立図書館では、全道の市町村史誌がそろっていて調べたい文書等についての「相談コーナー」もあり助かりました。読んでみると、驚くことに祖父母の名前が載っているものを発見することができました。

また、休みを利用して、祖父母の生まれ育った宮城県栗原市金成町や香川県さぬき市大川町富田へも行ってきました。100 年以上も前にここで祖父が育ったのかと思うと感無量でした。孫やひ孫を歓迎してくれるかのように村祭りの最中でした。【裏面に続く】

手稲一万歩あるく会 ~ 歩いて知った手稲の歴史

富丘 谷川 一弥 氏



創立は昭和 44 年 5 月、当時手稲公民館長の萬田茂次さんが、何か後々まで残る事業をしたいものと考え、地域の皆さんの健康増進のため歩く事を勧めたいと、手稲中央小学校長の湊勲さんに相談したところ、こころよく賛成してくれました。

発足当時の会員数は 40 名ほどで、朝早く新鮮な空気を十分に吸って朝 6 時から一万歩以上歩くという事から会の名前は「手稲早起き一万歩あるく会」の名称になり初代会長に校長の湊さんが就任されています。

5 月から十月までの間、毎週日曜日午前 6 時から手稲公民館を基点として、一万歩(約 5km)を歩く。会則も作り、役員も配置しています。

当時は家族ぐるみの参加が、多かったし名簿を見ると満 2 歳でお母さんの背に共に参加し、よちよち歩きから独り歩き、今では考えられない参加者の光景が目に見えます。

当時の歴史を見ますと ……

昭和 42 年に札幌市との合併。

昭和 44 年に札幌市が手稲町、開拓 100 年を記念して造られた手稲記念館と同じ年に手稲一万歩あるく会が創立しています。

翌年、昭和 45 年札幌市の人口が 100 万人を超えています。

昭和 60 年 9 月から朝の集合時間が 6 時から 7 時に変更になっています。

今年は第 45 回の節目の年です。

歩く全 25 コースには、どのコースも歴史に関係があります。

歩いている通り、手稲山から流れる川と橋、トイレや休憩で利用する公園を知る事によって、手稲の歴史が少しでも解っていければ良いと思っています。

現在は夫婦や友達同士で参加する人が多いです。

夫婦の会話から ……

「恋女房、今では肥え女房」手稲一万歩あるく会に入っ
て、少しやせなさい!

と、アドバイスしている夫。

これから、出来るだけ郷土史研究会で手稲の歴史を学び知
った事を歩いた時に説明できるように、したいです。

決して何事も歴史を風化させる事のないようにしていきたい
と思います。

…………… ◇ …………… ◇ …………… ◇ …………… ◇ ……………

【前面より】

これらの調べてきたことをまとめて、「わがルーツを訪ねて」として「資料編」「物語編」を手作りで作
りました。そして親戚一同へ配りました。みんな、喜んでくれました。

北海道への移民のことについてはいろいろな本も出ています。今回、ひとつの事例として、私の家族史
から北海道への移民について発表する機会を与えてくださったことに感謝しています。

次回の予定

次回(10月9日)は、平木重男氏
の「鉦山発掘、体験は無想」と西田
忠行氏の「手稲鉦山史の掘り起こし」
の研究発表を予定しております。
会場は、視聴覚室です。